

研究主題 「一人一人を大切にし、信頼関係に立つ教育の推進」に関する本校の実践

三郷市立新和小学校

1 教師と児童生徒の信頼関係を築くために、あるいは、いじめ・暴力行為・不登校等の生徒指導上の課題を解決するために、小・中連携（小中一貫）をとおして具体的にどのような取組みをしているか。

はじめに

小中連携の目的として、次の3つを挙げている。

- ① 9年間を見通し、確かな学力、心豊かな児童生徒の育成、健康の増進・体力の向上を図る。
- ② 中学入学の際し、中学校生活にスムーズに溶け込ませ学校不適応を解消する。
- ③ 生徒指導の情報交換を行い、積極的に生徒指導に生かす。

① 生徒指導委員会の充実

月一回の定例委員会や臨時の部会を教育相談部会と合同で実施し、一人一人の児童を見つめ、各学年の課題を出し合い情報交換を行っている。その時に、中学校の生徒指導担当と相談員さん（スクールカウンセラー）も参加し、小学校の現状を知ってもらおうと共に、中学校の現状や卒業生の様子などについても、情報交換をしている。

特に、6年生の気になる児童については、卒業後も中学での指導を要するため、指定された日に中学校から授業の様子を見に来てもらうこともある。

課題解決に向けた対応を部会で立て、「生徒指導ニュース」を発行し、全教職員が共通理解のもと、指導にあたっている。特に、問題行動には、個人カルテを作成し、細かな行動や言動を記録すると共に、対策や改善案を立てている。保護者の対応も含めて、担任任せにせず組織的対応を基本とし、学年・生徒指導部で対応している。必要ならば、中学への資料にもする。

② 新和小生徒指導を冊子にまとめ、中学校へ提示

毎年共通理解、共通行動を進めるため教員必携を作成している。その中に、いじめの定義や変遷など引用し、いじめ早期発見の手立てや対策に役立てている。また、組織的対応図などを掲載している。それを、中学にも周知してもらうために冊子を提示し、児童の学校生活のきまり・生活目標の取組・指導の体制などを理解してもらっている。

③ 授業規律の確認

中学との連携を図り、中学と同じあいさつの仕方を実施している。昨年度は、高学年・中学年と広がり、今年度より全校実施となった。市の授業の心得の取組も小中強化して取り組んでいる。



④ 中学の先生の授業

週一時間社会科教諭が、6年生3クラスを教えている。歴史の詳しい内容や興味深い問題提示などがあり、児童も興味津々に学習をしている。中学での学習の仕方も身につけている。

⑤ 生活アンケートの実施

いじめの早期発見と誠意ある対応を図るために、児童の悩みや自分の行動を振り返り、よりよい新和小学校にするためのアンケート調査を年3回（6月、10月、2月）行っている。各学期の半ばに実施し、後半の学校生活を安心して過ごせるようにしている。不安を抱えている児童については、迅速に対応し不安解消に努めている。資料は、学年ごとにまとめ、中学に進学した後にも、人間関係や個人の様子を知らせるためにも保管している。



⑥ 校門でのあいさつ運動

毎朝、校門で、計画委員会の児童と共に校長、教頭、委員会担当者、生徒指導担当で、あいさつ運動をしている。

毎週木曜日には、中学生が小学校へあいさつ運動を行っている。生徒会を中心に部活単位やボランティアを募って参加している。小学生へ元気を与えるとともに、中学生の成長した姿を母校に見せに来る事もでき、相乗効果を上げている。

⑦小中花の交換会

小学校の栽培委員会と生徒会・花咲かせ隊とが、心の架け橋運動として、お互い心を込めて咲かせた花を交換している。お互いに、小さな一粒の種の命を大切に育てる心を育てている。



⑧小中合同会議

小中意見交換会を1学期に開いている。参加者は、小学校は計画委員会の児童、中学は生徒会の生徒である。内容は、互いの学校紹介、学校自慢、クラブ・委員会の紹介、行事紹介などを話し合い、今後の共通な取組について意見交換を行った。



⑨ブックタイムでの読書ボランティア

中学生は事前に小学校の学校図書館に来て、当日読み聞かせてあげたい本を選び、練習をしていく。

今年度は、1学期に17グループが来校し、1～5年生にお話を読み聞かせてくれた。



⑩夏休み算数教室の協力

夏休みに行われる算数教室に中学生が協力し、ミニ先生として採点をしたり、分からないところを教えたりしてくれた。

⑪プラスバンドクラブと吹奏楽部の合同練習

中学生が、演奏の仕方を教えてくれる。音の出し方や楽器の扱い方など、手本を見せてくれるので、とても効果的である。



⑫夏季休業日における教職員の合同研修

小中の全職員が集い、近況報告をすると共に今後の連携について話し合う。

⑬6年生の中学での体験授業

教科担任制を体験する。昨年は、社会科（貿易について）、国語科（古典）、数学（ x を使った式）などを体験した。

⑭小学校の陸上大会の練習の協力

中学から陸上部が走り方、幅跳び、高跳びの仕方などを教えに来てくれる予定である。

⑮双方の授業参観や異校種体験研修

学校公開や異校種体験研修で、先生方が互いの学校を見合う機会とする。児童生徒の実態を捉えると共に、小学校から進級した児童がどのように成長しているかを直に見取る事ができる。

⑯地区懇談会の実施

年2・3回行われる地区懇談会には各町会長をはじめ、保護者の出席がある。児童の実態把握や改善への取組が、地域ぐるみで話し合われる絶好の機会となっている。親の学習や携帯に潜む危険を知り、PTA・教員・地域が一体となって、研修した。中学生の実態も周知することができた。

⑰地域との連携

安全パトロールでは、多くの保護者の協力があり、登下校時では、地域の「見守り隊」の方が活躍していただいている。

また、夏休みには、主任児童委員・民生委員さんとの情報交換をしている。これにより、児童虐待傾向の児童や長欠傾向の児童の夏休み中の状況や非行関係での兄弟関係の問題が明確にされる。児童の実態を知る上でも大きな情報源となっている。学校・家庭・地域が一体となった教育の推進となっている。

おわりに

各担任は、児童一人一人の考えや悩み、思いを迅速につかむことを心がけている。すぐに対応ができるように、日々努力している姿がある。一人一人を大切にし、信頼関係に立つ教育の推進のために、児童の実態把握をし、小中連携を通して情報交換を密に行い、教職員間の共通理解・共通歩調に努めている。『みんなで、小さなことでも見落とさず指導していくこと』を旨に、日々指導に当たっている。